

2019年10月27日～11月3日

中国吉林省

——長春・公主嶺・四平を訪ねて

村田嘉明（会員・国際交流委員）

10月27日（日）

中国東北地方の旅は、1年振り（2018年6月以来）である。

13時25分、成田発CZ中国南方航空で15時30分定刻に長春龍嘉国際空港に着き、空港国際線ターミナルで友人の長春人、王さんと1年振りの再会、空港駐車場に移動し、王さんの自家用車で市内の宿泊先ホテルに向かう。天気は快晴で途中、助手席の車窓から中国東北部の日没の「夕陽」を撮った。また、石炭火力発電所の「煙突」も撮影できた。これから中国東北部の冬は石炭火力による地域暖房システムが稼働する熱源が石炭火力発電所である。今回の旅行期間中、天候は晴れの日が続き、市内でマスクをした市民は、ほとんど見かけなかった。

空港から約1時間で緑園区内の錦江之星・一汽廠区賓城酒店636号室にチェックインする。荷物を開け、すぐ、カウンタートパートの王さんの自宅（朝陽区内）から王さんのクルマで市内中心部（朝陽区開運街）に移動。奥さんと8歳の突銘ちゃんと1年振りに再会。マンションは7階建の3階、エレベータはなし、間取りは146㎡と広い。テレビはシャープ製、洗濯機は松下（パナソニック）のドラム式、タイガー製の高級炊飯器など家電製品は日本製が多い。日本から持参した薬、日用品などの土産を渡す。夕食は夫人手作りの東北料理と青島ビールをご馳走になった。その後、王さん運転のクルマでホテルに戻り、就寝する。旅の疲れで熟睡する。明日は市内中心部「西安大路」「重慶路」行き。

10月28日（月） 長春市内

訪中2日目の朝、5時に起床しホテル2階の餐厅でトースト、コーヒー、暖かい牛乳で朝食。昨晩は旅の疲れで熟睡した。天候も晴れ、爽快な朝。9時過ぎにホテルを出発し、徒歩10分足らずで路面電車54路（旧満州国時代からの路線）創業大街から終点駅の工農大路で下車し、路線バス62番の西安大路で降り、長春市の中心部、重慶路と隣接し、ブランドショップも集中する繁華街へ。五星の香格里拉大酒店から徒歩10分で人民広場（旧大同広場）に移動し、中国人民銀行（旧満州中銀）前の地鉄1号線の人民広場から隣駅の解放大路で下車し、漢方薬局「北京同仁堂」見学。その後、地鉄で人民広場に降り正午、日本人の友人（長春在住25年）とホテルのロビーで再会する。長春市外事弁公室・欧主任と1年振りの再会、香格里拉大酒店1階のレストランでバイキングランチ。翌日10月29日から長春市とドイツとの交流イベントが香格里拉大酒店で開催のため外事弁公室は準備で市役所から職員が来ていた。欧さんはランチを途中で退席し、長春龍嘉国際空港にドイツの訪中団を迎えるため向かった。

香格里拉大酒店のランチ招待は欧さん

によるもので、中国料理、フランス料理、日本料理など、さらにケーキなどデザートも堪能した。ホテル前路線バス62番に乗り、生まれ故郷の旧居跡へ移動。上海路で降りたが夕立のため、便利店（コンビニ）で傘を買い、路線バス62番で工農大路に行き、路面電車54路で創業大街駅へ移動、ホテルに帰った。長春中心部「人民広場」を歩いて気づいたが、道路両側に赤い「五星紅旗」が整然と並んで吊るしてあったのは「国慶節」の延長か？

10月29日（火）長春西から瀋陽南へ

早朝、ホテルロビーで友人の王さんに会い、クルマで高鉄長春西駅へ向かう。西駅から高鉄G8004、7時4分発に乗り、瀋陽南駅に8時40分着。瀋陽南駅改札口A2出口で瀋陽青年旅行社の李さんと初めて会い、タクシーで目的地「瀋陽鐵路陳列館」に向かう。蘇家屯駅前に近い場所に本年7月リニューアル再オープン（2009年6月開館）した巨大なSL展示館である。満鉄時代の高速鉄道亜細亜線を初め、豪華な陳列に圧倒される。鉄道ファンでなくても見応え充分な価値ありの施設。私は鉄道マニアでないが10年以上昔、引揚者交流団体（3年前解散）の席で、南満州鉄道株式会社（満

鉄）のOB社員（1946年末までに本土に引揚、旧日本国有鉄道などに転籍した社員。現在は鬼籍の人である）から往年の高速列車亜細亜線の写真などを譲ってもらった。

入場料金は80元、私は65歳以上の高齢者で「無料」、中国は老人を優遇する国。2009年オープン時はSL車両の展示のみだったが、陳列した車両横に「中文の解説パネル」があり、SLファンにとってありがたい。旧満州国時代から中華人民共和国建国後、中国高鉄（和諧号）が広大な中国国土に果たした意義は大きい。ちなみに、陳列館入場者は研修目的の吉林省延辺鉄路局の男性1人だけだった。約1時間半の見学後、通訳ガイドの李さんとタクシーで瀋陽北駅（瀋陽市の中心地：高鉄の基幹駅）へ移動し、市府大路の「膳之坊老菜館」で昼食。レストランは瀋陽の中心地「北三経街」は瀋陽迎賓館（元奉天日本総領事館）に近い。地鉄2号線の市府広場駅から瀋陽北駅で乗り換え、瀋陽北駅発のG3801で長春西駅に約1時間半で戻った。

10月30日（水）長春西から四平東へ

本日は遼寧省境の四平行きのためホテルの朝食抜きで早朝7時前にホテルを出

て路面電車55路で高鉄の長春西駅へ移動する。路面電車55路（最近新規路線）と高鉄長春西駅が接続しているため、大変便利。

中国の高鉄の乗車方法は鉄道駅改札口でパスポートと乗車券を駅員に見せ、持参の荷物（リュックサックなど）をベルトコンベアに乗せ、身体検査、荷物検査後、待合室に移動し待合室電光板の列車番号と入場改札ゲートを確認し、発車15分前まで待合室で待機する。列車発車時刻の15分前に「緑色」の入場検札の電光版を確認し、入場改札ゲートに並ぶ。

改札が始まり（自動改札）乗車券を改札機に挿入し乗車券を取り出し、ホームに移動し列車に乗り込む。高鉄G400は定刻8時48分に長春西駅を出発し、定刻の9時15分に目的地の高鉄四平東駅に着く。乗車時間わずか25分だが、乗客と交流する。四平は吉林省の最南部の遼寧省境である。

先の大戦で私は両親と1945年8月終戦後、遼寧省葫蘆島から本土、博多港に引揚げた。その後、1946年（1948年に、国共内戦中の国民党と共産党が吉林省四平街で激戦を展開し、共産党軍が勝利した。今回、市内の「四平戦役記念館」に入場し「四平戦」の激しさを

痛感した。当時の共産主義戦士の国民的英雄「雷鋒」の伝記本を購入した。公園内に記念館があり「四平戦烈士記念塔」もあった。高鉄の四平東駅下車後、路線バス101番に乗り、隣席の女子学生（長春理工大学四平分校）に四平市内の場所を確認することができた。とても親切な会計学専攻の学生。帰路は四平駅前のレストランで昼食後、路線バス101番で四平東駅に移動する。

13時に高鉄の四平東駅の改札が始まり、四平東駅発G8009に乗り13時45分長春西駅に着く。路面電車55路で終点の工農大路で下車する。紅旗街、建設街と約20分歩き、地鉄2号線の文化広場駅（付近には偽満州国時代の国務院、地質宮、吉林大学がある長春の中心地）から地鉄2号線の解放大路駅で1号線に乗り換え、勝利公園駅（旧・児玉公園）で下車し北京大街をとり、私の出生場所である上海路（広州路）の旧居跡を再訪する。

旧居は15年くらい前に取り壊され、グリーンベルト帯（緑地帯）になっている。上海路と広州路に挟まれた場所であり、路線バスの

停留所（吉林省省政治協商会議ビル前）がある。広州路の反対側は地上3mの高さの塀が立つビル・マンション建設予定現場だが、4年以上放置された巨大な空き地。昨年6月の訪中時と同じ状態。上海路から路線バスに乗り、緑園区・皓月大路のレストランで夕食（餃子と青島ビール）。路線バス245番に乗り創業大街駅で下車、ホテルに戻った。



長春駅舎：2019.10.31撮影。このビル手前が駅前ロータリー、路線バスターミナル。ビル西側に軽軌（チングイ）1号線と3号線の駅がある。

10月31日（木）長春駅から公主嶺へ

本日も天気は快晴。ホテルを9時半に出発し、路面電車54路で創業大街駅を出発。寛平大橋駅で軽軌3号線（4輦編成の電車）に乗り換え長春駅へ。10時半に長春駅に着き、荷物検査、バスポート提示、乗車券チェックを受け、列車待合室に移動する。

11時35分ごろ改札が始まり、普通列車K2388の14号車に乗り込む。座席は硬座だが青いシートで柔らかな座席、長春人の家族連れと交流した。

12時24分定刻に目的地、公主嶺駅に着く。駅前は道路整備されているが、駅の前は道路工事で掘り返しの穴が多く、歩行に注意。公主嶺は満州国建国前から満鉄の農事試験場や公主嶺農学校があった農業県。駅前を進み、「新華書店」で公主嶺市のMAPを購入する。途中、中国銀行公主嶺支店で市政府の場所を尋ねる。4、5人の行員が熱心に説明してくれる（来店客が少ないため）。昼食を大型超市近くの包子店（中華饅頭）で包子2個、4元を支払う。味は良い。老板（店主・40歳くらい）と持参のタブレットで日本の風景写真を見せ交流した。約1時間、包子店で休憩し、帰路の列車の出発時間



中華人民共和国建国70周年記念マーク

調整をする。地方都市の公主嶺は四平市の管轄に入っており、農業・畜産業の農業県で大学、工場はない。しかし駅周辺の店舗は建材屋が多く、中国の地方都市も建築ブームか。包子店を出て、市政府や公主嶺科学技术部・公主嶺老科学者工作協会の建物を確認する。中国では北京中央政府科技部から地方都市の組織まで「科技組織」があることに感心した。この市の特徴は病院、農業関係の銀行が多いこと。メイン道路の両側に赤い「五星紅旗」が整然と並べてある異様な光景で

ある。共産党の地方組織まで赤い「五星紅旗」が浸透している情景だ。その後、公主嶺駅前の餃子店で蒸餃子と地ビール（四平産）で夕食。

午後4時を過ぎたため駅前の餃子店を出て公主嶺駅に向かう。公主嶺駅16時46分発2623普通列車で長春駅に帰る。公主嶺駅前は建材業者などの出張客が利用するのか、地方からの出張客用のホテル、旅舎が多かった。

11月1日（金）自由行動日

ホテルを9時半に出て54路で創業大街駅から工農大路駅で降り、路面電車の停車場から紅旗街にカメラを向けたがシャッターが下りない。故障である。

長春の友人の情報（中国版SNS微信）で地铁の工農大路駅から建設広場駅への順路をSNS微信で送ってもらった。そのMAPを参考に、建設広場駅から解放大路駅で乗り換え1号線人民広場駅で降り、徒歩で西安大路交差点香格里拉大酒店近くの国際大厦B座14階の山崎外国語培训学校を再訪問する。山崎女史と沙理事長（夫）に面会し、故障のカメラをもらい単3電池4個を交換してもらったが故障は直らなかった。当日、外国語培训学校に研修で来ていた張紫薇さん（光華

学院大学4年生）と近くの超市に行き買い物サポートをお願いし、買い物後、国際大厦B座近くのレストランに案内してもらい美味しい中国料理を食べ、満足した。

その後、路線バスと路面電車54路でホテルに帰る。ホテル客室で休憩と仮眠後、友人の王さんが午後6時ごろ、来訪。タクシーで移動し、西安大路交差点で降り、香格里拉大酒店近くの董魯烤焼鴨店で山崎女史夫妻と招待者の孫さんと5人で夕食会となった。孫さんは長春人で現在、息子さんが日本（京都）の大学に留学中で日本最員の中国人。長春市の役人で長春市都市環境局副局長の要職にあり常に長春市の環境、危機問題に注力している。

北京ダックなどの料理を食べながら「乾杯」を重ね、午後8時半を過ぎ、お開きになった。再会を約束し、董魯烤焼鴨店を後にし、王さんとタクシーで緑園区のホテルに帰った。明日は帰国前日で西安大路の長春市山崎外国語培训学校で日語角（日語コーナー）に参加し、長春市民と留学生（神戸市外国語大学、愛知学院大学）と日中交流会の予定。日本に5年〜15年くらい長期滞在し、日本の地方都市の工場ラインなどで働いた者が多い。日本語会話はできるが「日本語会話」を



左：左から王さん、山崎女史、村田、孫さん（長春市都市環境局副局長）、沙理事長
右：長春市山崎外語陪訓学校の日語授業科目一覧

忘れないよう日語角に参加している。年
代的には50歳台、60歳台が多い。山崎校
長がボランティアで教室解放。

11月2日（土）

ホテル餐厅で朝食後9時過ぎ、路面電
車54路で終点の西安大路で降り、徒歩2
分で春城大街で路線バス364番に乗り、
10時過ぎ、市内中心部の西安大路（重慶
路）でバスを降り、バス停前の国際大厦
14階、山崎外語陪訓学校に着く。すでに、
「日語角」参加者は着席しており、私を
待っていた。時間は10時、12時で前半1
時間は私の「報告」、後半1時間を長春
市民、留学生との交流時間。テーマは
「中国東北部からの引揚者私の中国との
国際交流」であった。日本人5人、中国
人7人（内男性6人、女性1人）。

同校、山崎女史から報告依頼があり、
何の準備、資料配布もなく、私の中国東
北部・長春との交流を報告した。私の記
憶により長春中心部（現在の上海路）で
生まれてから約2年間、遼寧省葫蘆島か
ら本土（博多港）引揚までの経緯を説明
した。中国東北部からの引揚者105万
人の「1人」が私で残留孤児にならず、
両親と3人で引揚、時代が推移し定年退
職後、第二の故郷「長春」をこの20年前

から団体旅行（引揚者団体：日本長春会
や個人旅行で訪問し、上海路の旧居跡地
を訪問して、個人的に親しい長春人、長
春市外事弁公室と交流していることを説
明した。参加者の中国人7名は日本に仕
事で長期間滞在したことがある。日本語
会話はできるが日本語を「忘れない」よ
うにするため、毎週「日語角」に参加し
ている。

日本人の留学生は短期留学生で人民大
街の東北師範大学に留学中。私と同年代
の小島さんは現役時代、中国各地に「出
張」経験者で中国語を学習中、日本にい
た留学生（調布市・電気通信大学修士生）
から中国語教師と親密な交流があり、長
春市内の老師の自宅に7泊し翌日11月3
日中国南方航空CZ便で帰国した。CZ
便の座席は偶然隣席だった。

11月3日（日）帰国便の荷物トラブル

早朝、チェックアウトし、王さんの車
で一路市内「南関」（一通河近く）のリ
ムジンバスターミナルに移動。午前5時
15分にターミナルに着き、王さんと別れ、
6時10分リムジンバスで「長春龍嘉国際
空港」に到着する。8時10分発中国南方
航空CZ便で帰国する。



前列左から神戸市外国語大学生、愛知学院大学生（東北師範大留学生）、村田、小島さん、山崎校長
後列は中国人（長春人）で長期・就労ビザで日本国内各地、働いている人たち。

往路は成田空港で荷物検査は順調にパスしたが、復路は長春龍嘉国際空港発CZ便搭乗の際、空港CZチェックイン時に「警報」が鳴り、トランクを開封させられリチウム・イオン電池をトランクから取り出し、リュックサックに移し換えた。また、成田空港の最後の関門、税関でトランクキャスターを引き税関に行く途中、茶色の小型の検閲探知犬に接近され、係官に誘導されトランクを開封した。自身は中国の青島啤酒と使用済下着のため問題なく、税関通過、入国できた。検閲探知犬の鋭い「嗅覚」でトランク底に浸みついた缶啤酒（ビール）の「液体の匂い」を嗅ぎつけられた。帰国日の2日前にホテル近くの超市（大潤発）で青島啤酒、哈爾濱啤酒を買ったが、トランクに入れた1本が缶底から「液漏れ」していた。トランク内部を「乾燥」させたが、匂いが残り、犬の嗅覚に反応したものの、犬は麻薬捜査専門の犬と動植物食品「移入」防止の検閲探知犬がいる。成田や羽田の国際線「入国」税関検査場の近くでは「検閲探知小型犬」に注意。

終わりに

訪中時期が10月の国慶節および中華人民共和国「建国70周年」と重なり、瀋陽、長春など大都市以外の地方都市（四平市、公主嶺市）でも鉄道駅内、メイン道路、大衆レストランなどに①五星紅旗、②建国70周年記念広告（前掲写真参照）が多くあり、中国東北部でも全国的に建国70周年のスローガンが展開されていた。

今回の旅行で長年の友人や、新しく知り会った長春市民、庶民と国際交流できたことが収穫だった。11月3日に帰国したが滞在中はすべて「快晴」に恵まれ幸運だった。しかし帰国の2週間後には降雪があり中国東北部は「冬」に移行していった。

中国東北部は日本語を学んでいる若者が多数いることを知り、日中友好の絆を深めたい。

この訪中記は、新型コロナウイルス感染症パンデミック以前の2019年11月現在の情報です。

中国ファンの私としては早く「新型コロナウイルス」が収束し、再訪中の機会を希望しています。